

## セントラル宮城で新型カロラのラインオフ式を実施 —アクアに続く東北での新型モデル生産開始—

セントラル自動車(株)(以下、セントラル)は、セントラルの宮城工場でトヨタ自動車(株)(以下、トヨタ)の日本国内向け新型カロラアクシオおよび新型カロラフィールダーの本格量産を開始するにあたり、本日、宮城県の村井嘉浩知事、セントラルの葛原徹社長、トヨタの豊田章男社長、仕入先や販売店など多数の関係者出席のもと、ラインオフ式を実施した。

セントラルの葛原社長は、「メイドイン東北として初めての記念すべきフルモデルチェンジを果たしたこの車とともに、しっかりと宮城の地、大衡の地に根付いていきたい」と述べた。

トヨタの豊田社長は、「宮城生まれの新型カロラによって、日本中のお客様に笑顔になっていただき、宮城の元気、東北の元気につなげていけるよう、これからも心を合わせて頑張ってまいりましょう」と述べた。

また、来賓として出席した宮城県の村井知事は「日本の国民車ともいべき『カロラ』が、トヨタ国内第3の拠点『東北・宮城』で生産されることは、雇用の面のみならず、自動車関連産業の復興にも結びつき、さらには、私たちに自信と希望とそして元気を運んでくれました」と語った。

なお、新型カロラアクシオ・カロラフィールダーは、本日より、東北復興のシンボルとして、宮城県の玄関口である仙台空港に展示される。

セントラルは、2011年に、高密度で高効率な工場を実現する「コンパクト」、生産変動への柔軟な対応を可能とする「フレキシブル」、地域・環境・人との調和を目指す「ハーモニー」の3つを工場のコンセプトとして、革新的な生産技術を広く取り入れた宮城工場を新たに立ち上げた。

同年5月から宮城工場でカロラアクシオの生産を開始しており、今回の新型カロラからは、同モデル内でのより効率的な生産を行うため、カロラアクシオに加えて、カロラフィールダーの生産も行う。

セントラル、関東自動車工業(株)、トヨタ自動車東北(株)の3社は、2012年7月に統合し、「世界NO.1の魅力あるコンパクト車の提供」を目指すトヨタ自動車東日本(株)が発足する。今回、関東自動車工業岩手工場で生産しているコンパクトクラスのハイブリッド車「アクア」に加え、コンパクト車の代表モデルのひとつである新型カロラをセントラル宮城工場で生産することで、共用部品の拡大などにおけるコストメリットを生かし、コンパクト車づくりに専門性を持つトヨタ第3の国内生産拠点として、モノづくりの実力をさらに磨いていく。

以上